

長堀

日本の城郭では、銃眼が突き出でていない部分が長く続く石垣はほとんどなく、城郭南側に沿った全長 242m のこの直線的な石垣は珍しいものです。築城当時は途中で門がありましたが、後に封鎖されました。石垣は荒く削った石をはめ込む石積み技法（打ち込みはぎ）で作られています。この技法は無加工の天然石（野面積み）と比べると整っていますが、完璧に削った石（切り込みはぎ）ほど緻密ではありません。石垣の上にある土壁は、下部が黒塗りの下見板張り、上部には白い漆喰が施されており、全体に瓦が葺かれています。この白黒のコントラストは熊本城の特徴となっています。石垣に平行して流れる坪井川は、内堀として利用するために築城主の加藤清正（1562-1611）によって直線化されました。